



社会福祉法人手をつなぐとなみ野 〒932-0053 小矢部市石動町9番30号 TEL・FAX (0766) 68-3822
e-mail: tonamino@bz03.plala.or.jp http://www.tonamino.or.jp/

「ホームたてのがはら」オープン！



平成28年4月1日に法人4つ目のグループホームとして南砺市立野原地域に「ホームたてのがはら」がオープンしました。3月30日に竣工式を行い、南砺市長をはじめ多数来賓の方々にご出席いただきました。入居する利用者から代表でお礼の言葉と、これからのグループホームでの生活の希望を述べました。竣工式の後には、内覧会とし、地域の方々が見学に来られました。

言葉のかけはし

「こんにちは」の挨拶で癒しと頂く元気

京塚区長 沖田拓夫様

静かな集落に元気のいい声で「こんにちはあ」と男女が数人、私が畑仕事をしていると声をかけてくる、ある晴れた日のお昼近くの時間帯のこと、農作業でエルハート城端農場へ午前の作業を終えて帰る光景です。今までになかったことから気恥ずかしさから言えなかった挨拶も当方から「こんにちは」と返すようになり、今では自然に双方から挨拶が出てくるようになりました。

当地の立野原は戦後まもない昭和二十一年十一月に開拓地として入植したところであり、初代の父母が開墾で作った畑地でありますが、現在は農地整備され、農業機械によって耕作されています。

従来は、春のイチゴ、夏はすいか、馬鈴薯、秋は大根、白菜、サツマイモ等と野菜栽培が盛んで立野原ブランドとして市場でも高く評価されていました。

しかし、畑地の耕作放棄地が増えブランド力もなくなった現在、もう一度再興、活性化できないものかと農場長の境さんとよく語り合うこともありました。

しかし、戦後生まれの団塊世代、古希をむかえて限界があり成果は期待できないことから、福祉作業所通所者が農産物の栽培から出荷・加工までの一部を担うにたたくか、又、私たち農家が手伝うことによって、通所者の社会への自立とエルハートの農業経営の確立を図って、立野原ブランドの再構築ができないものかと願っています。

私も、エルハート城端の仲間の元気を糧に日々農作業に頑張りたいと思います。



作業所交流会

5月26日、砺波青少年自然の家で第18回作業所交流会を開催しました。『となみんピック』と題し新聞ちぎりやどんぐりつまみなど様々な楽しい競技を行いました。レザークラフトではカラフルなおりを作りました。



初夏の行楽

6月8日、共生型グループホームらぶあけぼのの利用者全員で、ますのすしミュージアム・富山市ファミリーパークへ出かけました。動物ともふれあい楽しむことができました。



編集後記

だんだんと暑くなり、夏だなあと感じる今日この頃...
最近汗だくになりながら作業しています。
先日、涼を求めて夜に外へ出てみると蛍が飛んでいました。
暑い中でも少し涼やかな気持ちになりますね。
夏の風物詩、みなさんも探してみてくださいはいかがでしょうか。(広報委員 K)



砺波事業所交流会

6月15日、砺波事業所総勢64名が集い、ボウリング交流会を開催しました。一生懸命投げる姿にあちこちから応援コールや拍手が起こり大変盛り上がりしました。



****お知らせ****
ホームページに平成27年度決算情報を掲載しました。

手をつなぐとなみ野 理事長 穴田 清



私の好きな言葉に、「どんな人でも何かいいものをもっている。駄目な奴だと簡単に決めつけ、共に生きることを諦めたら、家庭も会社も国家も崩壊する。富士山のすそ野を切れば、富士山ではない。すそ野が雄大であるから、富士山は雄々しく美しいのだ。」と、いうのがあります。これは亡くなられたオークスグループ会長の奥野博氏の言葉です。

障害のある人もない人も、年老いた人も子供も様々な人が、助け合い支えあって共に生きる社会こそ自然な社会なのだと改めて考えさせられました。

常務理事 尾崎 順子

(共同生活援助事業所 チーフマネージャー兼務)

最近、「合理的配慮」という事をいろいろな場面で耳にします。グループホームで暮らす人たちにとっての合理的配慮ってどんなことなのか、どのような配慮が求められるのでしょうか。

常に相手の立場に立ち、時には自身の身に置き換えて考えながら、お互いにハッピーになれる事が大切ではなかろうか。共同生活をしながら自立した生活を送る人たちの応援団でありたいと思います。



平成28年度各事業所の

取り組みと抱負

各事業所チーフマネージャーの決意のもと
職員一丸となって利用者支援に取り組みます！

事務長 米永 敏

(地域生活支援センターすまいる センター長兼務)

相談支援専門員の職員2名と共に「支援をする」ではなく「支援をさせていただく」の“心”と、“心の目線で見える”ことを忘れることなく、利用者の方々への支援を進めていきます。また、職員からは頼れる「すまいる」を目指していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。



共同生活援助事業所

チーフマネージャー 境 富廣

(南砺事業所 マネージャー兼務)

「今福祉の世界がおもしろい」 変革のときをむかえ、果たすべき役割は重くなったが、今こそ職員が本物のプロとしてその実力を世に示す時だ。ただ漫然と業務をこなすだけでは満足感や地域からの高い評価は得られない。役割は重くなり大変になったが、大変だからこそやりがいがある。それが福祉の仕事であるという強い使命感を抱き、ハイレベルなサービスを提供することが今私たちに求められている。



地域密着型サービス事業所

チーフマネージャー 長谷川 京子

平成24年4月、小矢部の駅南に開設し早5年。障がい者と高齢者が、『ふれあい・ささえあい・かたりあい』ながら、一つ屋根の下で生活を送っています。シーツ交換のお手伝い、休日の掃除、外出の付添い、話し相手など普段の生活の中での触れ合いを、今年も大切にしていきたいと思っています。皆さん気軽に遊びに来て下さい。



小矢部事業所

チーフマネージャー 辻 信明

障がい者福祉の分野は今、法律の改正が追いつかないくらいに深化、多様化しております。高齢に向けての対応、就労支援、権利擁護、強度行動障害など、専門的知識の習得、事例研究に職員一同努めてまいります。



砺波事業所

チーフマネージャー 古池 淑栄

4月より「自称、古い新入社員です！」とふれ込みながら頑張っています。各所のチーフがしっかり運営しており、その姿に懸命に追いつくべく日々過ごしています。利用者も職員も笑顔いっぱいの事業所を目指します！！



南砺事業所

チーフマネージャー 戸田 裕子

「和を以て貴しとなす」私はこの言葉をいつも念頭において行動しようと思います。皆が仲良く、たとえ意見が違っても歩み寄り、話し合い、認め合う。そうすれば自ずと笑顔も増え、職員間、利用者や保護者との関係もスムーズになるように思います。また、生活介護事業の立ち上げはこれから多くの方々の協力のもと、検討していかなければならない大きな課題です。これからも利用者の笑顔のために頑張ります。



基本理念

共に生き、共に働き、共に暮らす

利用者の人格と人間としての尊厳を護り、地域社会で自立した生活を営むことができるように支援することを目的とします。

- ・一人ひとりに合った自立への支援を行い「笑顔と活力あふれる法人」をめざします。
- ・職員は常に自己研鑽に努め、法人組織が一丸となって支援にあたります。
- ・障害者の社会自立と障害者への理解を得るために、地域社会との交流を深めます。

具体的な取り組み

本年度は次の4点について重点的に取り組みます。

利用者支援の充実

- ・ヒヤリハット報告による事例検討の実施
- ・利用者の権利擁護と虐待防止に向けた虐待防止委員会の積極的な取り組み



職員の処遇改善・生きがいを持って働ける職場づくりとスキルアップ

- ・ゼミ形式による少人数でのテーマ別勉強会の実施
- ・職員のモチベーションアップに向けたキャリアパスの再構築



環境整備・社会福祉施設等整備事業

- ・グループホーム「ホームたてのがはら」の開設
- ・福祉作業所南天桐の新築移転



地域との積極的交流

- ・地域や他法人を巻き込んだイベントの実施
- ・ホームページ等を活用した情報発信



福祉作業所南天桐新築工事 地鎮祭の様子